

気象ひとくちメモ

「メイストーム」

今回は、4月後半から5月にかけて発生する嵐のような気象現象「メイストーム」について解説します。ちなみに「メイストーム(May storm)」とは和製英語で1954年(昭和29年)5月10日、北海道近海で大量の漁船遭難を出した低気圧からこの言葉が生まれました。

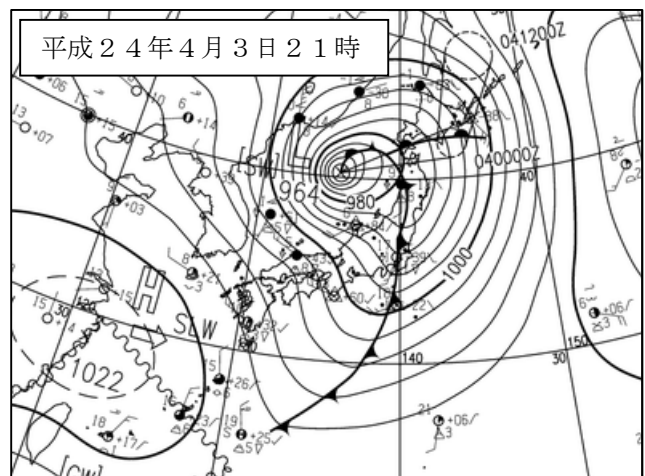
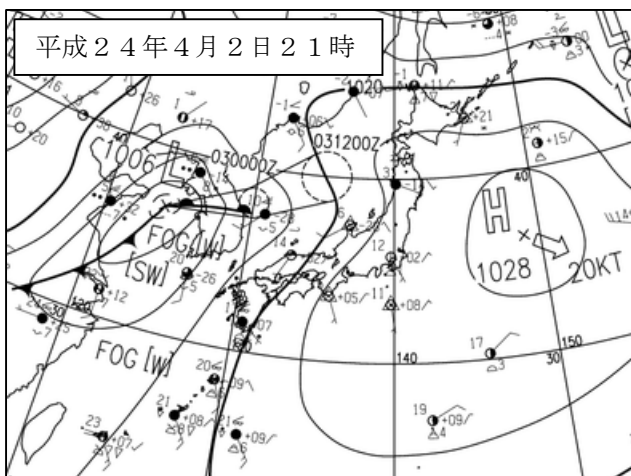
この時期は季節の変わり目にあたり、初夏の暖気と冬の寒気がぶつかりあって気団の温度差が非常に大きくなることがあります。このようなとき、日本海で低気圧が急激に発達して荒れた天気になることがあります。これが「メイストーム」です。

「メイストーム」では、突然の強い風で海が大荒れになったり、局地的に非常に激しい雨が降ったりします。また、落雷や降雹が起きることもあります。しかし、年によっては「メイストーム」は発生しないこともあります。

ところで、今年4月2日から3日にかけて、低気圧が日本海で急速に発達し、寒冷前線が西日本から北日本を通過して、「メイストーム」のように各地で暴風による災害をもたらしました。

今回の低気圧では2日21時から3日21時までの24時間に中心気圧が42ヘクトパスカル低下し、新潟県佐渡市で43.5メートルの最大瞬間風速を観測しました。熊本県内でも阿蘇山で38.2メートルの最大瞬間風速を観測しました。

この時期は農作物が生育し始め、さわやかな気候のころですが、ときには春の嵐によって海難事故、建物や農作物などへの被害をもたらすという一面もあります。気象情報を確認して万全の災害対策をとってください。



地上天気図

低気圧が急速に発達、24時間で中心気圧が1006hPaから964hPaに低下した。
(hPa:ヘクトパスカル)

(本件に関する問い合わせ先)
熊本地方气象台 技術課 (096-352-0345)